



いつもご支援ありがとうございます



グッズ再販！ (4月1日～5月31日)

第1回目デザイン



社会に貢献する非営利団体をデザインを通して応援するJAMMIN (ジャミン) さん。過去2回、くまもりとコラボをして、グッズの売り上げをご寄付くださいました。今回、1ヶ月にわたり過去のグッズがネットで再販されます。この機会にぜひお買い求めください。

QRコードからご購入いただけます



第2回目デザイン



会費納入はクレジットでの継続払い、又は、銀行の自動引き落としとしてお願いできると大変ありがたいです。

2024年1月より会員種類の分類を変更しております。

- 応援会員 1千円以上6千円未満
- 正会員 6千円以上10万円未満
- 特別会員 10万円以上

会費・寄付のお振込先

- ①郵便振替
 - 口座名/熊森基金 00970-8-137360
 - 他金融機関からは099店当座 0137360
- ②銀行振込
 - 三井住友銀行 西宮支店 普通 8558663
 - 口座名/一般財団法人日本熊森協会



寄付で支援する

2023年度

事業報告

1.1~12.31



無断転載禁止



一般財団法人
日本熊森協会

～ クマ捕殺強化政策が進む中、私たちに何ができるのか ～

クマ絶滅に向かう恐れ

会員の皆さま、いつも日本熊森協会をご支援いただきありがとうございます。
2023 年は、クマたちにとっても地域の方たちにとっても受難の年でした。東北や北海道では、過去最高の記録的猛暑となったためか、山に食料がほぼないという過去に例のない状況が発生したもようです。餌を求めて山から出て来たクマたちは子連れや 0 歳の子グマまで次々と殺処分され、捕殺数は過去最多の 9000 頭にのぼりました。うち 8 割は東北と北海道で、まだ「深く豊かな奥山」が残っていると思われた地域でもクマを養えるだけの森の豊かさが失われつつあります。

これだけの大量駆除を行ったにもかかわらず、昨年 11 月中旬、北海道と東北 6 県、新潟県の知事が連名で、環境省に「クマを指定管理鳥獣」にしてほしいという要望書を出しました。指定管理鳥獣とは、報奨金を出し、捕殺強化によってシカとイノシシの数を激減させるために創設された制度です。クマは既に九州では絶滅、1990 年代には四国や西日本を中心に絶滅危惧種に指定されています。シカやイノシシと桁違いに数が少なく繁殖力も弱いクマを指定管理鳥獣にすれば、地域的に絶滅してしまうことも起こりえます。しかし、環境省はクマの指定管理鳥獣化に向けて動いています。

全生物と共存してきた「森の文明」が消滅の危機

私たち日本人の祖先は、生きとし生けるものすべてに畏敬の念を持ち、奥山をクマたち野生鳥獣の聖域として極力手付かずで保全してきました。その結果、奥山は巨木の水源の森となり、そこから湧き出す栄養豊かな水で農作物が豊かに育ち、川や海は生きものでいっぱいでした。この水は今では大都市に住む人々の生活や大量の水を使う工業をも支えています。自然を身近に感じ、自然に自分たちの生活を合わせながら生きてきた日本の文化

や伝統は、日本の発展を支え、世界からも高く評価されてきました。

しかし、戦後、奥山の豊かな自然は拡大造林や大規模林道などで破壊され、今また新たに地球温暖化や再エネ開発などで急速に劣化しています。今、森林破壊を止めなければ、日本は水を失い、かつて滅びた文明と同じ道をたどるでしょう。

こんな時だからこそ、
ぶれずに声を上げ行動しよう

大変胸が痛む苦しい時ですが、こんな時だからこそ、次世代のため全生物のために豊かな森を生きものごと残そうという私たちの活動が必要とされています。今後も、クマとの軋轢を抱えて苦しんでいる地域や再エネによる自然破壊に立ち向かうとしていく方々となつたり、都市の人にも呼び掛けて水源の森を守るよう全力で取り組みます。

人身事故の多発からパニックのようになり、生息推定数の 50%以上のクマを捕殺してしまった秋田県でも、共存に向けて熊森の支部を作ろうという流れがおき、年明けに支部の誕生につながりました。北海道支部や新潟県支部でも、クマとの共存をめざして支部活動が活性化しています。全国の支部と協力し、地域から野生動物や自然を守る流れを起こし、顧問の先生方をはじめとする心ある国会議員の方々にご協力いただき、国を動かしていきたいです。会員のみなさんも、ぜひ、私たちと歩んでください。



会長 室谷 悠子

野生動物保護 ～暴走するクマ捕殺に歯止めをかけるために～



秋田県美郷町 親子グマが逃げ込んだ畳屋の作業場。すでに箱罠に親子グマ（白矢印）が捕獲されており、不安そうにしていた。
午前 5 時 佐藤支部長撮影



兵庫県豊岡市 人身被害防止のためクマを誘因する不要な柿の木を伐採し、片付けをしているボランティアの皆さん

●親子グマを秋田初の放獣例にせんと
熊森新潟県支部長が秋田県へ

秋田県美郷町で 10 月 4 日早朝、山に帰り遅れた 3 頭の親子グマが人に見つかり、畳屋の作業所に逃げ込んでいたとの夕方ニュース。新潟県佐藤支部長はクマ捕殺暴走中の秋田県で初の救命例を願い、夜通し車を走らせて翌 5 日早朝現地到着。必死で交渉するも、3 頭共殺処分に。

●祝本部も協力し、兵庫県豊岡市が
人身事故 0、クマ捕殺 0 を達成

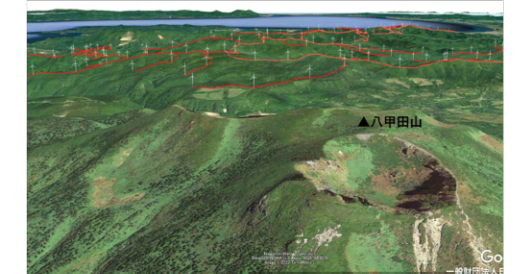
日本熊森協会鳥獣被害対策班と書かれた黄色のジャケットを着た職員とボランティアたちが、どんな柿の実にクマが来るのか研究しながら、クマを集落に入れない被害防除に徹底協力。
事故 0、捕殺 0 を見事達成。地域の方にも喜ばれました。

奥山保全 ～森保全・再生、再エネによる森林破壊阻止～



●祝東京都奥多摩でクマ生息地の山をトラスト

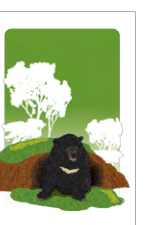
首都東京には、まだクマの棲む森が残っています。山梨県坂名井支部長のお力で、奥多摩町の山林 17.5 ha を買い取ることができました。東京都内での初トラストです。



●祝青森八甲田風力発電事業が白紙撤回される

青森県の団体「Protect Hakkoda ～八甲田の自然を後世に～」や木村淳司青森市議らの八甲田を守る闘いを熊森も応援しました。白紙撤回は大快挙です。

【目次】クマ（野生動物）保護事業…………… 4
生きものの棲める森保全・再生事業…………… 7
再生可能エネルギーによる森林破壊阻止…………… 9
野外調査・研究事業…………… 10
環境教育…………… 11
出版事業・組織一覧…………… 13
会計報告…………… 14



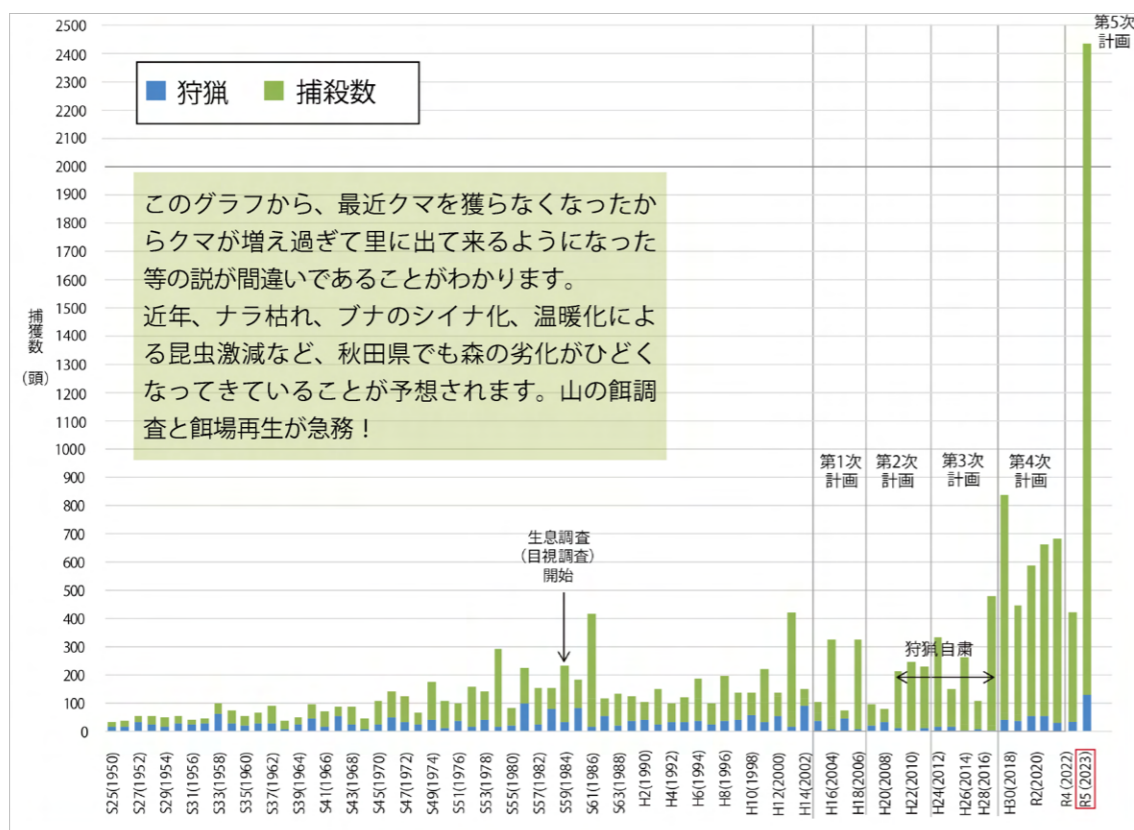
表紙イラスト 高野哲史

～ 2023 年のクマ大量出沒は、クマではなく山に原因～

2023 年秋、北日本を中心にかつてない規模のクマが出沒し、それに伴って人身事故数も激増。秋田県では 62 件、被害者 70 人（死亡 0 人）の人身事故が発生しました。例年の 7 倍にものぼる数です。知事をはじめ行政は、いかにクマを捕殺するか躍起になっているように見えます。その気持ちはわからないでもありませんが、クマを大量に駆除し続けても、クマが里に出ざるを得

ない状況を放置している限りは、人身事故はなくなりません。クマが突然生態を変化させたのではなく、山に餌がなかったのです。まず考えるべきは、餌をどう保障するかです。秋田県では、里の栗や柿を全部伐れと言われているそうですが、そんなことをしたらクマが市街地にまで出てきます。人間には、空腹に苦しむクマたちを思いやる優しさが必要です。

秋田県クマ殺処分数 1950 年～ 2023 年



大量捕殺に疑問を持つ秋田県民が集う

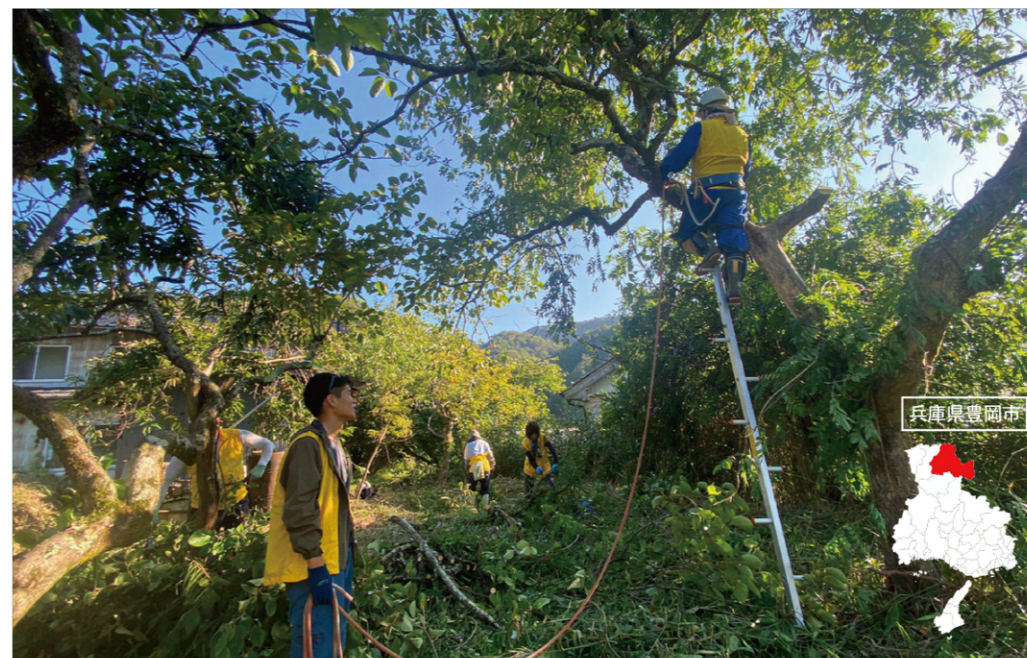
11月20日～22日、主原顧問、森山名誉会長、職員吉井がクマ大量捕殺が続く秋田県の山を視察し、地元の皆さんと懇談。12月3日には、室谷会長、職員吉井が秋田県を訪れ、会員や地元の皆さんと懇談。



クマの食べ物カロリー表	
品目	100g 当たりの熱量 (kcal)
クルミ	670
ブナ	650
米	356
ミズナラ	287
コナラ	284
クヌギ	202
クリ	160
サケ(鮭)	130
イワナ・アマゴ	114
シカ肉	110
カキ	60
リンゴ	54

クマが冬眠前に必要なのは、カキよりドングリ

～行政・集落・熊森が協力、被害防除を徹底して人身事故0クマ捕殺0達成～



兵庫県 集落からの依頼でクマが来ないように柿の木を剪定

豊岡市から熊森本部に、クマと人との軋轢を減らすために、今年各地で被害防除を徹底したい、協力してほしいという依頼がきました。早速職員とボランティアからなる12名の「フィールドチーム」を作り、各種安全講習を受け、練習を重ねました。9月は数件でしたが、10月～12月にかけては連日クマが集落に出てきました。草刈

り、不要な柿の実の除去や柿の木の伐採などを実施。集落外の柿の実も、集落の了承を得てクマのために残しました。12集落89か所で活動。ボランティアのみなさんも大活躍で見事目標達成。地元自治会からも大変喜ばれました。現地までの交通費等の必要経費は、会員の皆さんの会費を使わせていただきました。

新潟県 クマの啓蒙・被害対策講座

新潟県はクマが多く生息し、人身事故が毎年5～20件発生、捕殺数も年間500頭を超えます。事故を無くし、駆除も減らしたいと願う新潟県佐藤支部長が企画し、本

部クマ担当者たちが新潟県で出張講座。2023年は、新潟県下3市1村で7回実施、参加者はのべ280名でした。



5月21日 胎内市のクマ対策講座



10月16日 妙高市のクマ対策講座

新潟県クマ対策講座実施
3/19・21 村上市（支部主催）
5/21 胎内市（胎内市主催）
10/15 関川村（地元議員主催）
10/16 妙高市（妙高市主催）

主な本部活動

- 2月 4日 神奈川県清川村錯誤捕獲グマの捕殺現場視察 羽田
- 3月 24日 兵庫県森林動物研究センター訪問 会長、森山、水見、羽田
- 3月 1日 兵庫県野生動物保護管理運営協議会に委員として出席 会長（熊森は2001年より委員）
- 5月 29日 滋賀県庁、京都府庁訪問 捕殺一辺倒でクマを大量に捕殺している京都府庁に改善を求める
- 9月 21日 神奈川県鳥獣被害対策支援センター訪問 錯誤捕獲グマの放獣場所確保を求める 本部支部
- 9月 25日 新潟県村上市でクマ調査 新潟県佐藤支部長、水見、羽田
- 11月 20日～22日 秋田県美郷町・大仙市の山視察 現地交流 森山、主原顧問、吉井
- 12月 3日 秋田県美郷町のクマ捕獲現場視察し現地で会員らと交流 会長、吉井
- 12月 6日 環境省堀上審議官（鳥獣担当）にクマを指定管理鳥獣にしないよう環境大臣宛要望書を提出 会長、埼玉県池田支部長、埼玉県高橋副支部長

今後の展開

人身事故等の過激な報道からクマに対する過度な恐怖が植えつけられ、捕殺に拍車がかかっています。子グマであっても親子グマであっても、情け容赦なくクマを殺すことを容認する社会になってきたことに、本部は危機感でいっぱいです。空腹に苦しむ

クマたちに同情し、思いやる報道はありません。このままではクマを乱獲し絶滅させる恐れがあります。クマ本来の姿を知る熊森が、クマが森に棲んでいることの意味や生態、正しい対応を普及させねばなりません。

保護グマたち



とよ 13才 大阪府
(イノシシ 罠への錯誤捕獲)

クマ牧場の獣医さんが、なんてかわいいクマなんだろうと感嘆。野生で大人になったクマでも、人に十分なつくことを証明した「とよ」。



太郎 33才 和歌山県
(みなしごグマ)

夏に食欲がなくなり心配しましたが回復。人参大好き太郎、復活。穏やかな日々を過ごしています。クマは飼育下ではとても長生きです。



くま子 3才 和歌山県
(みなしごグマ)

すっかり大人の体格に。お世話隊の方からもらったおもちゃを振り回したり、壊したりと元気いっぱいです。遊びを考えつく天才。



本部スタッフ・ボランティアのみなさんが、愛情をこめてクマたちのお世話。プール掃除は大変ですが、保護グマたちの喜ぶ顔を見たくて力が入ります。

～広葉樹林化の実践例づくり～

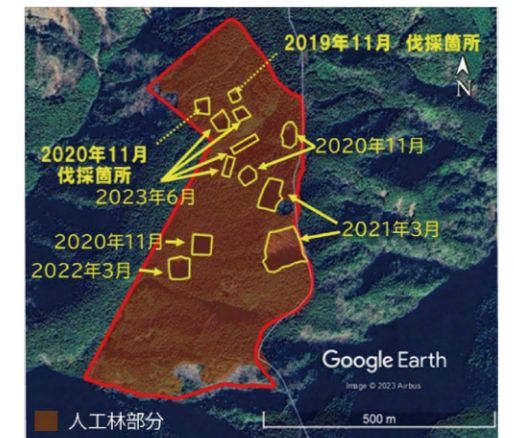


水源保全、災害防止、野生動物との共存のためにも、奥山全域、尾根、沢筋、山の3分の1、急斜面の人工林は、広葉樹を中心とした天然林に戻すべき。

高知県香美市 石立山 第2トラスト地 「佐保の森」22ha



急斜面の崩れた道を補修 3月4日～5日



トラスト地航空写真 黄色枠内が伐採済み箇所

四国山地は高い標高までスギやヒノキの人工林で覆われています。熊森は残り十数頭で絶滅寸前の四国のクマたちに至急餌場を再生する必要があると考え、2019年からスギ・ヒノキを伐採し、天然林再生に取り組んでいます。毎年トラスト地内のスギ約20本に、クマが樹皮をはいで甘い樹液を味わった新しいクマハギの跡があるため、スギも残しながら広葉樹林化を進めています。

2023年3月4・5日、まず最初に道の補修です。崩れた急斜面の道を、丸太を引き上げて土留めにし、付近の土を盛って固めます。



伐倒木を片付け、土に戻す



新たな植樹地2つ完成



4年前に伐採した場所はトゲ植物で覆われていた



崩れない道造り



鋸山 (1109m)

4月16日の航空写真 赤枠内がトラスト地 尾根には落葉広葉樹林が残されている

滋賀県高島市「平出の森」215ha

滋賀県支部が熊森トラスト地の中の人工林部分で、天然林化を進めています。

2021年からは、地元森林組合に間伐や作業道の補修を委託しています。毎月1回、スタッフやボランティアでも作業を実施。2023年は、毎年壊れてしまう観察用の道を壊れにくい道にできないかと、自伐型林家の岡橋清隆氏にご指導いただきました。研修会を通じて広葉樹林化の道筋をたてようと、支部スタッフ一同鋭意研鑽中です。

奥多摩トラスト地 17.5ha

2023年7月に購入された山林は、標高780m～1107mで北西-南東方向に延びる鋸山～大岳山の稜線上から北東方向に下がる斜面の中腹に位置する幅340m、長さ700mの山林です。標高1050m～1100mのエリアには70年生以上のミズナラを中心とした落葉広葉樹林が広がり、クマの目撃情報もあります。また、流域人口350万人にも及ぶ多摩川水系の水源の一部にもなっており、都民の水資源確保の観点から保全の重要度が高い場所となっています。大半は人工林ですが、尾根筋部分には、ミズナラの他にイヌブナやシバグリなどの堅果類や、ヤブデマリなどの液果類も確認され、カモシカの角による樹皮痕もあります。

再生可能エネルギーによる森林破壊阻止

～全国各地で、再エネ森林破壊型事業の中止を求める流れが広がる～



事務局池田が林野庁に署名提出



兵庫県西宮市 全国再エネ問題連絡会第2回大会 発表者たち



25536筆集まる

メガソーラーや大規模風力発電施設建設による森林破壊を止めるため、全国の住民団体と協力して立ち上げた全国再エネ問題連絡会の活動は3年目に入りました。団体・個人参加数は60を超え、熊森は共同代表と事務局を務めています。情報共有や専門家のアドバイスにより、全国の再エネ森林破壊を止めるための住民運動を支援しています。

12月6日、多くの熊森会員も協

力してくださった、再エネ森林開発規制を求めた署名25536筆を林野庁長崎屋圭太森林整備部長に提出することができました。

地元が反対の声をあげたり、熊森の会員が強力に署名活動に協力、してくださったおかげで、再エネによる問題点を多くの方が認識するようになってきました。150基の風車建設予定がある宮城県加美町では、8月の町長選挙で反対派の町長を誕生させることができまし

た。また、青森県八甲田に150基計画されていた「みちのく風力発電」も青森県民や知事らの大反対を受け、業者が白紙撤回を発表。他の地域でも住民らの強い運動により事業が止まる例も出てきており、全国再エネ問題連絡会や熊森の活動が着実に成果を生んでいます。

主な活動（本部）

- 3月4～5日 四国トラスト地の道造り
- 6月19日・25日 植樹地森再生活動 兵庫県豊岡市但東町大河内
- 6月26日～28日 四国トラスト地人工林伐採
- 7月18日 植樹地森再生活動 兵庫県豊岡市但東町大河内・床尾
- 11月23日～25日 四国トラスト地伐採木の片付け、シカよけ網を張り新たな植樹地作り

今後の展開

野生動物との棲み分け復活のため、水源の森保全のため、花粉症に苦しむ国民のためにも、熊森が長年取り組んできた放置人工林の広葉樹林化は、本来、国や地方自治体がすべきことです。公費での事業が進まないの、民間の熊森が自ら会費で汗まみれ泥まみれで実践してきました。しかし、私たちだけでは、豊かな森の再生

は進みません。熊森も大変苦勞をしてロビー活動をし森林環境譲与税を広葉樹林化に使えるようにしましたが、未だ行政の実践例はほとんど誕生していません。今後は、広葉樹林化を実施する担い手づくりも含めた事業が進められるよう、自治体と協力していく必要があると考えています。

今後の展開

国内外の投資家や大企業に支えられ、森林を破壊する再エネ事業が次々と計画されています。日本列島の水源の森は一体どこまで再エネ事業で破壊されるのか、考えるだけでも恐

ろしくなります。今後も法規制を求めたロビー活動や省庁との交渉、自治体の条例規制の制定を連絡会や熊森が支援していくことが必要です。

弁護士でもある室谷会長は、全国各地の住民運動を法律の面から支援しています。2023年6月6日、宮城県加美町の住民が風力発電に関する契約を巡る住民訴訟を提訴。8月23日、奈良県平群町の住民がメガソーラーの林地開発許可の取消訴訟を提訴。室谷会長は、この2つの裁判に代理人として関わりました。



加美町の風力発電に関する契約を巡る住民訴訟



平群町のメガソーラーの林地開発許可の取消訴訟

主な活動（本部）

- 2月 8日 再エネ問題連絡会で関係省庁訪問 会長、山口
- 4月 27日・28日 宮城県加美町再エネ問題現地調査、地元集会に出席 鈴木共同代表、会長、池田、小松
- 5月 3日 風発反対で北海道仁木町宮下周平氏訪問 水見
- 5月 3日 北海道石狩市 北海道風発問題ネットワーク代表 佐々木邦夫氏訪問 水見
- 6月 6日 宮城県加美町住民ら風力発電問題で加美町長を提訴 会長（代理人弁護士として）、池田
- 7月 13日 再エネ問題連絡会で関係省庁訪問 林野庁、経産省、国交省 会長、森山
- 7月 18日 環境省環境影響評価課とオンライン面談 会長、森山、池田
- 7月 27日 林野庁青山豊久長官に面会、国有林を再エネ事業へ貸さないよう要請 会長、池田、宮城県加美町から猪股、庄司、小林
- 8月 23日 奈良県平群町メガソーラー問題で住民ら奈良県を提訴 会長（代理人弁護士として）、須藤
- 9月 16日 日弁連主催 再エネ問題シンポジウムに出演 会長
- 10月 28日・29日 北海道仁木町の風力発電を考える会で会長講演、風車計画地調査 会長、水見
- 12月 6日 林野庁長崎屋森林整備部長に再エネ乱開発の規制を求める署名提出 鈴木共同代表、小山獣医、池田、宮下夫妻
- 12月 6日 環境省植田審議官（脱炭素担当）面会、エネルギー庁再生可能エネルギー推進課訪問 会長、鈴木共同代表、小山獣医、池田、宮下夫妻
- 12月 12日 国交省吉田参事官 盛土規制法について意見交換 会長、鈴木共同代表、安藤共同代表

野外調査・研究事業

～再エネ開発を止めるための調査を開始～



2月23日宮城県クマタカ撮影：小松支部長



2月調査時の雪に埋まる宮城県調査現場の様子



4月調査時の木々が芽吹く宮城県調査現場の様子

2023年2月と4月で計5日間、風力発電建設による奥羽山脈尾根筋の森林破壊を止めるために、日本の天然林を救う全国連絡会議事務局長の渡部康人氏の指導のもと、職員羽田と宮城県小松支部長の3名で絶滅危惧種の猛禽類であるイヌワシとクマタカの調査を行いました。

2月は数mの雪が積もる宮城県のブナ林で吹雪に耐えながら、4月は木々が芽吹く中、調査。クマタカの撮影に6度成功しました。個体識別の仕方も教わり、風力発電計画地がクマタカの繁殖に重要な場所であることを確認しました。

環境教育事業

～自然を大切に育て、全国に森や動物を守る仲間を広げる～

環境教育

2023年度は会員の皆様のご尽力で環境教育実施回数が増加。教職員組合のイベントでの発表もできました。

児童、生徒の保護者の方から熊森環境教育を推薦していただくと、学校側も安心して任せてくださいます。お子様の在籍している学校に、熊森の環境教育や講演を提案いただくと嬉しいです。



くまもりカフェ

くまもりカフェでは、講師の講演後に約1時間の参加者交流会を設けています。会員の方も会員以外の方も参加でき、地域の方の熊森活動や自然への思いを知ることができる大変有意義な会です。

最近は、支部と本部のコラボやゲストに熊森顧問の先生をお招きして講演いただくこともあります。

長野県松本市のくまもりカフェでは、熊森をとっても応援してくださっている顧問の務台俊介衆議院議員にお話ししていただき、参加者の皆さんからも大好評でした。お住いの地域でも開催してみたいと思われる方、ぜひ一度本部までご連絡ください。

主な本部活動

- 1月 11日 東須磨児童クラブ（兵庫）
- 1月 30日 箕面自由学園（幼稚園）（大阪）
- 5月 15日 北浦小学校（宮崎）
- 5月 16日 三河内中学校（宮崎）
- 5月 17日 駒澤大学高等学校（東京 会長講演）
- 7月 1日 五常小学校（大阪）
- 7月 11日 用海小学校（兵庫）
- 7月 26日 東垂水児童館（兵庫）
- 8月 1日 用海小学校（兵庫）
- 8月 8日 福田児童館（兵庫）
- 8月 22日 落合児童館（兵庫）
- 9月 29日 松陰おかもと保育園（兵庫）
- 10月 21日 箕面自由学園（大阪 会長講演）
- 11月 11日 ひょうご教育フェス（兵庫）
- 12月 7日 洛北中学校（京都）

本部イベント・ブース出展

- 2月 25日 本部主催とよのお話会（兵庫）
- 10月 18日 安藤誠講演会（大阪）
- 11月 3日 わくわく瓦木まつり展示（兵庫）
- 11月 4日 ダイワ運輸（株）ブース出展（兵庫）



長野県松本市くまもりカフェで講演 務台俊介顧問



青森くまもりカフェ



9月30日 京都府 京エコロジーセンター
京都くまもりカフェ

くまもりカフェ (本部参加のみ)

- 2月19日 京都府京都市
- 8月19日 長野県松本市 (長野県支部 主催)
- 9月29日 青森県弘前市 (青森県支部 主催)
- 9月30日 青森県青森市 (青森県支部 主催)
- 9月30日 青森県十和田市 (青森県支部 主催)
- 9月30日 京都府京都市
- 10月22日 兵庫県宍粟市

講演

支部の活動の活性化や再エネ問題の取組が広がり、より一層、全国での講演活動が増えました。マスメディアが本当に大事なことを伝えない中、くまもりの講演は、奥山の森の危機や会の活動の意義などを伝えるとても重要な機会となります。



12月19日 読谷山洋司延岡市長出席
「宮崎県延岡市再エネ規制条例」について 会長

室谷悠子会長講演

- 2月9日 堺浜寺ライオンズクラブ (大阪)
- 2月23日 愛知県支部主催 (愛知)
- 3月26日 広島・山口 RC2710 地区吉舎 RC 講演 (広島)
- 4月1日 神奈川県支部主催 (神奈川)
- 6月17日 静岡県浜松市母親大会 (静岡)
- 7月8日 (公社) 大阪自然環境保全協会 (大阪)
- 7月17日 愛知県名古屋市 サマーセミナー (愛知)
- 7月29日 日本弁護士連合会環境法サマースクール(東京)
- 7月31日 兵庫県弁護士会公害環境委員会 (兵庫)
- 8月9日 環境法律家連盟動物愛護部会 (オンライン)
- 8月27日 みやっこセミナー 2023 (兵庫)
- 9月25日 参政党党内勉強会 (東京)
- 10月28日 仁木の風力発電を考える会 (北海道)
- 12月14日 西宮恵美寿ロータリークラブ (兵庫)
- 12月19日 宮崎県延岡市市長の出張出前講座 (宮崎)

森山まり子名誉会長講演

- 3月22日 豊中千里ロータリークラブ (大阪)
- 3月25日 小山会員主催 (東京)
- 7月15日 本部主催 (広島)
- 10月28日 尼崎環境教育フェス (兵庫)
- 11月15日 山本会員主催姫路茶話会 (兵庫)
- 11月26日 坂部会員主催 (香川)
- 12月8日 山口県支部主催 (山口)

水見主任研究員

- 7月16日 福岡県支部主催 (福岡)
- 7月18日 九州女子大学 (福岡)

米田真理子国際部長

- 12月12日 在日アメリカ商工会議所



11月26日 香川県高松市
「どうしたら日本の森が守れるのか」 森山名誉会長

出版事業

6月に初めての事業報告書を発行。また、多くの方が目を通し、希望がわく紙面をめざしてリニューアルした会報誌「くまと森と人」を作成。年2回、夏と冬に発行しました。2007年に当時の森山会長が書いた日本くまもり協会の誕生物語「クマとひととひと」(1冊100円)は、2021年に近況が加筆され、発行から26年たった今年年間約5000冊が売られています。多くの方に感動を与え、総発行部数は57万部となりました。



組織

評議員：森山昭典 関亥三郎 比留井幸一

会長：室谷悠子

理事：森山まり子 中川壮平 宮井正三郎 三浦通滯湖 清水智美

監事：森晋吾 原田亮定 木村溶徹

評議員会の開催実績 1回 3月29日

理事会の開催実績 4回 3月7日、6月20日、9月25日、12月4日

本部は毎月1回の幹部会、毎週木曜日にスタッフ会議を実施

2023年度会員数(12月31日付) 20,837名

本部：兵庫県

支部：28支部

北海道 青森県 宮城県 新潟県 群馬県 埼玉県 東京都 神奈川県 山梨県 栃木県 石川県 長野県
岐阜県 三重県 愛知県 滋賀県 和歌山県 大阪府 鳥取県 岡山県 広島県 山口県 高知県 愛媛県
徳島県 福岡県 宮崎県 熊本県

2か月に1回、オンラインで支部長定例会を実施。

会長・本部スタッフ・支部長・支部役員が参加して、熊森が取り組んでいる課題の共有や解決法に向けて学んだり意見交換をしたりしました。

顧問

宮澤正義 生物環境学・野生動物研究家【名誉顧問】
(ツキノワグマ研究第一人者)

主原憲司 昆虫研究者 (森林生態学研究)

赤木文生 国際ロータリー第2680地区パストガバナー
元日本弁護士会 副会長

赤松正雄 元衆議院議員 (元厚生労働副大臣)

中野和子 公認会計士 税理士

マルコム・フィッツアール カピラノ大学名誉教授

門崎允昭 北海道野生動物研究所 所長 農学博士
(ヒグマ研究第一人者)

大前繁雄 元衆議院議員 (元防衛大臣政務官)

安積遊歩 ピアカウンセラー

安田喜憲 国際日本文化研究センター名誉教授 理学博士
ふじのくに地球環境史ミュージアム館長

西川節行 元広島大学教授 関西経済連合会

橋本淳司 アクアスフィア代表 水ジャーナリスト

船越康弘 民宿「百姓屋敷わら」経営

石 弘之 元東京大学大学院教授 元駐ザンビア特命全権大使

船瀬俊介 消費者運動ジャーナリスト

今本博健 水工技術研究所代表 京都大学名誉教授 工学博士

平野虎丸 森林・林業アドバイザー

一般社団法人エコシステム協会理事

林 将之 樹木図鑑作家

馬淵睦夫 元ウクライナ大使 元防衛大学校教授

藤田 恵 徳島県旧木頭村 元村長

嘉田由紀子 参議院議員 滋賀県選出 前滋賀県知事

安藤 誠 プロネイチャーガイド 野生動物写真家

片山大介 参議院議員 兵庫県選出

池田直樹 弁護士 (大阪弁護士会) 日本環境法律家連盟理事長

務台俊介 衆議院議員 長野県選出

土屋品子 衆議院議員 埼玉県選出

和田有一朗 衆議院議員 兵庫県選出

飯田哲也 認定 NPO 法人環境エネルギー政策研究所所長

鈴木猛康 新 防災推進機構理事長 山梨大学名誉教授

会計報告

2023年度の収入合計は、69,696千円でした。たくさんのご支援をいただいたおかげで、北海道・東北を中心に全国を飛び回ることができました。本部がある兵庫県では、クマ対策のために連日地元へ駆けつけ、他の地域でも使えるクマ被害防除対策を習得しました。ありがとうございました。

経常費用は事業費と管理費を合わせて54,195千円となり、経常増減額は15,501千円の黒字という結果になりました。黒字分は2024年度の活動に向けて、繰り越します。

令和5年度正味財産増減計算書

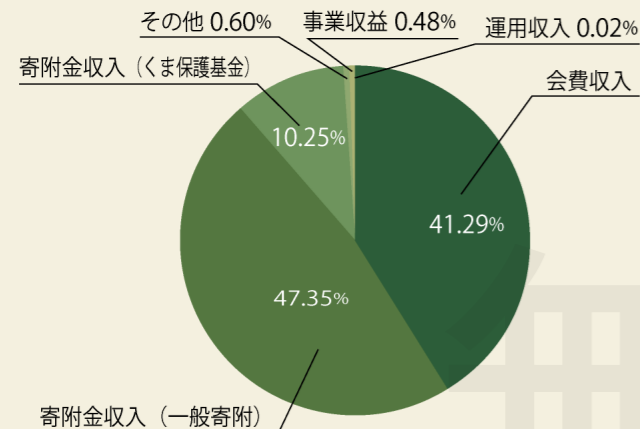
■正味財産増減の部

経常収益の部		(単位：千円)
運用収入	12	
会費収入	28,779	
事業収益	335	
寄附金収入	40,149	
その他	421	
経常収入合計	69,696	
経常費用の部		(単位：千円)
事業費	42,010	
管理費	12,185	
経常費用合計	54,195	
当期経常増減額	15,501	
一般正味財産期末残高	141,301	
指定正味財産期末残高	114,081	
正味財産期末残高	255,382	

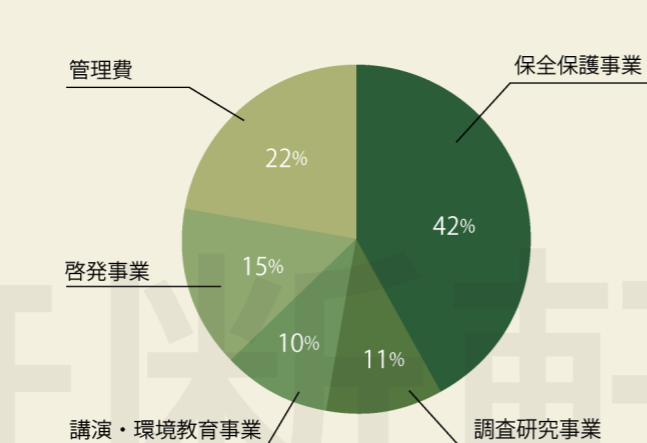
積立金・トラスト土地

積立金		(単位：千円)
自然保護特別積立金	55,557	
野生動物保護積立金	20,000	
施設設備整備積立金	15,070	
管理業務積立金	40,295	
合計	130,922	
トラスト山林		
滋賀県高島市(2015年取得)	215ha	
兵庫県豊岡市(2016年取得)	10ha	
高知県香美市(2018年取得)	24ha	
高知県香美市(2018年取得)	22ha	
兵庫県養父市(2019年取得)	2ha	
福島県会津若松市(2020年取得)	2.75ha	
東京都西多摩郡(2023年取得)	17.5ha	
合計	293.25ha	

経常収益の部



経常費用の部



太郎と花子のファンクラブ会計報告

2023年1月1日より12月31日まで

和歌山県の山田順二宅で保護飼育されている太郎とくまこの飼育補助

収入	(単位：千円)	支出	(単位：千円)
寄付金	354	飼育費	360
その他	1	交通費	36
合計(A)	355	消耗品費	72
		その他	6
		合計(B)	474

2023 収支差額 (A)-(B)=(C) -119
2022 年より繰越金 (D) 3,992
2024 年への繰越金 (C)+(D) 3,873

※上記会計報告は当法人顧問の公認会計士中野和子先生にご指導いただきました。

企業会員

マルソー(株)	新潟県	オーセンテック(株)	神奈川県	(有)アイ・エー・シー	大阪府
(医)小川医院	茨城県	上昇運輸(株)	石川県	(弁)東大阪総合法律事務所	大阪府
星野管工(株)	群馬県	(株)アライアンス	石川県	(株)イワノ	大阪府
(有)長谷川電機商会	埼玉県	飛騨産業(株)	岐阜県	(株)シーエスハラダ	大阪府
(株)日本ウォーターテックス	埼玉県	(株)伴電気商会	岐阜県	(弁)あすなろ	大阪府
(株)セレモ	千葉県	(株)プレマ	愛知県	合同食品(株)	大阪府
(株)祐真	東京都	(株)メイコウ	滋賀県	(株)尼崎工作所	兵庫県
(株)学夢堂	東京都	(有)ブルベリール 紀伊國屋	滋賀県	ダイワ運輸(株)	兵庫県
アカデミア動物病院	東京都	(株)トータルヘルスデザイン	京都府	(株)Lightning&Star	兵庫県
(株)Major 7th	東京都	朝日商工(株)	大阪府	(株)ネイチャー生活倶楽部	熊本県
(株)ベアーズ	東京都	豫洲短板産業(株)	大阪府	(医)杏子會	宮崎県
(有)コスモス	神奈川県	ムソー(株)	大阪府	(株)吉玉自動車工場	宮崎県
神谷コーポレーション(株)	神奈川県	(株)ホワイトマックス	大阪府		

団体会員

(有)仁井田本家あぐり	福島県	(株)わらべ村	岐阜県	尼崎プロバスクラブ琴寿会	兵庫県
(株)小松設計	千葉県	(有)島田家具工芸	滋賀県	和田山ロータリークラブ	兵庫県
(株)シーエスコポレーション	東京都	(株)アタシオン	京都府	ドッグハウスK9	兵庫県
(株)シェア・ワールド	東京都	木下音楽教室	大阪府	東城ロータリークラブ	広島県
(一社)シェア基金	東京都	西宮恵美寿ロータリークラブ	兵庫県	吉舎ロータリークラブ	広島県
(医)飯沼病院	東京都	(株)ヒューマレッジ	兵庫県	(宗)龍国寺	福岡県
(株)オリエントナノ	神奈川県	第一電子(株)親睦会	兵庫県	(株)リンク・マーケティング	福岡県
ももちゃんの森の探検隊	神奈川県	西宮甲山ライオンズクラブ	兵庫県	公文東与賀教室	佐賀県
ぺこちゃんも	神奈川県	NPO会計支援センター	兵庫県	(株)宮崎中央新聞社	宮崎県
(株)クリーンK	岐阜県	(株)GEOソリューションズ	兵庫県	(有)角田	鹿児島県
(株)杜の研究所	岐阜県				